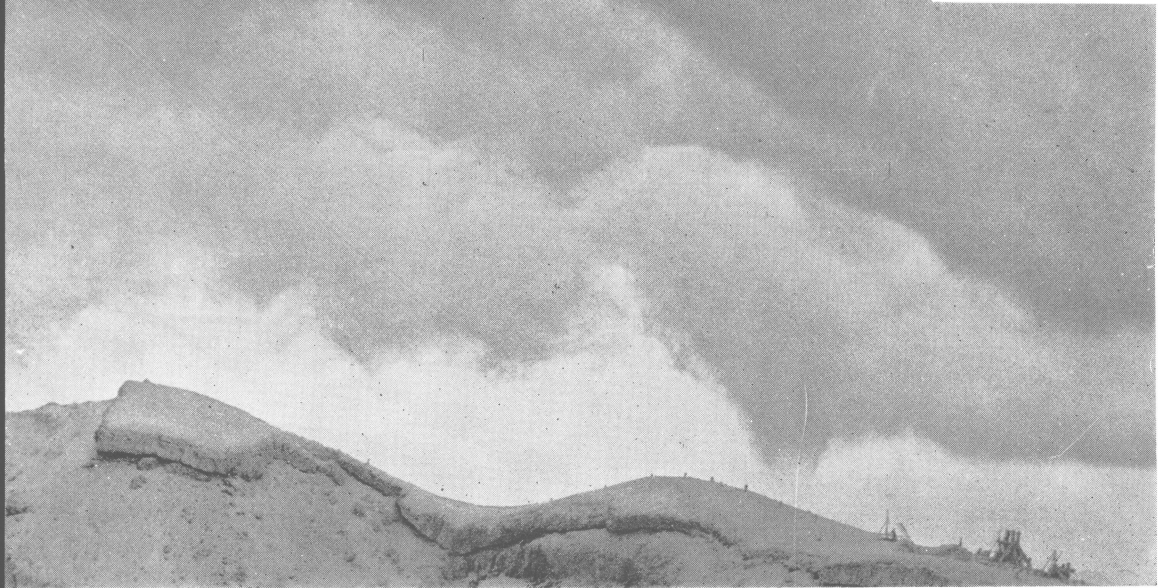




故野中至翁



笠雲の下面 (山本三郎氏撮影) 大井正一

山本三郎氏が昭和29年3月20日10時15分富士山測候所より撮影されたもので、笠雲の下面が良く表現されている。左の山は大日岳、右が成就岳で、その鞍部の裏に荒巻といって噴気孔がある。その後ろに大山が薄く見えている。右には無線中継所が見え、又所々に電柱が点々と見えている。此の日は低気圧が通過した直後で、山頂では6時に大雪で9時頃から北分が入って晴れ出している。しかし上層の谷が朝鮮にあり、天気はなお愚図ついで、御前崎では21時から再び雨となっている。(天気1, 2, 12参照)

目次

表紙写真	Water-drop の写真	成瀬 弘氏撮影 (説明は20頁)
表紙2写真	笠雲の下面	山本三郎氏撮影
表紙3写真	鳥島気象観測所	樋口三郎氏撮影
<hr/>		
気候の概念に関するシンポジウム (I)	気候談話会	1-4
実験気象学 (主として雲物理学) の 国際討論会に出席して	山本義	5-8
解説 数値予報の基礎 (II)	岸保勸三郎, 眞鍋淑郎	9-10
報 梅雨期の上層の場について	村上多喜雄	11-15
文 降雨中の人工放射能について	寺崎恒信, 山辺敬之 新関八郎, 加藤武雄	17-20
ソヴェートの気象学	当舍万壽夫	21-24
明治時代の台風「6月流れ」について	茶屋道久吉	16
雨量計余話	今山正春	25
野中至君の逝去を悼む	佐藤順一	28
雲鏡		27
書評 天気予報三十年, 後氷期の世界, 大空の科学		26
前号訂正		20